

## 第 8 回宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1 . 日時：平成 2 7 年 8 月 1 8 日（火） 1 6 : 0 0 - 1 7 : 4 5

2 . 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3 . 出席者

( 1 ) 委員

山川部会長、松井部会長代理、青木委員、下村委員、白地委員、中村委員、松尾委員、松本委員、薬師寺委員

( 2 ) 政府側

小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、松井宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、高見宇宙戦略室参事官、末富宇宙戦略室参事官、守山宇宙戦略室参事官

4 . 議事要旨

( 1 ) 国際宇宙ステーション計画を含む有人宇宙活動について

資料 1 に基づき文部科学省から、資料 2 に基づき山川委員から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。( : 質問・意見等 : 回答)

( 資料 2 の「新たな日米協力の構築という目的を達成すべく、外交ルートを通じて国務省と議論すべき。」という記述について ) 日米間で交渉を進めるに当たっては、ホワイトハウスや NSC 等の多くの関係者とも意見交換しつつ進めることが重要である。

日米宇宙協力の深化が強調されているが、米国以外の各極とはどのように協力をしていくのか。

まずは協力関係が緊密な米国との協力の実績を積み重ね、他極との将来的な協力の可能性を探っていきたい。

我が国が利用権等のリソースを他国に対し提供するのであれば、それに見合ったリターンが最大限得られるようにするべき。

コストパフォーマンスの観点から、将来的な費用や成果が見通せるようにして検討を進めるべき。

アジア諸国との協力関係の構築は、外務省の戦略と組み合わせて進めるべき。

我が国のリソースを他国に提供することにより、アジア諸国の優秀な人材を取り込み、我が国の能力を向上させることにつなげることが重要である。

「アジアのゲートウェイ」は日本の国益に貢献することが重要である。それが伝わるような表現とするべき。

今回の議論は、仮に ISS 運用延長に参加した場合、約 10 年後の ISS の在り方にも影響を与える重要な機会であるので、様々な可能性について排除することな

く検討するべき。

本部会における議論の結果を宇宙政策委員会に報告するとともに、今後も引き続き政府において検討及び関係者との調整を進めていくこととなった。

(2) その他

宇宙システム海外展開タスクフォースの検討状況について事務局から説明があった。説明の後、以下のような意見等があった。( : 質問・意見等)

他国のニーズを早期の段階から把握しておくことが重要である。当該国の社会インフラ整備の方向性等、宇宙に限らず幅広い分野のニーズを調査し、その中から宇宙とつなげられるところを探ることが重要である。

以 上